

「乳酸菌L.ラクティス プラズマ」による 冬期の風邪・インフルエンザ様症状の発症抑制を確認

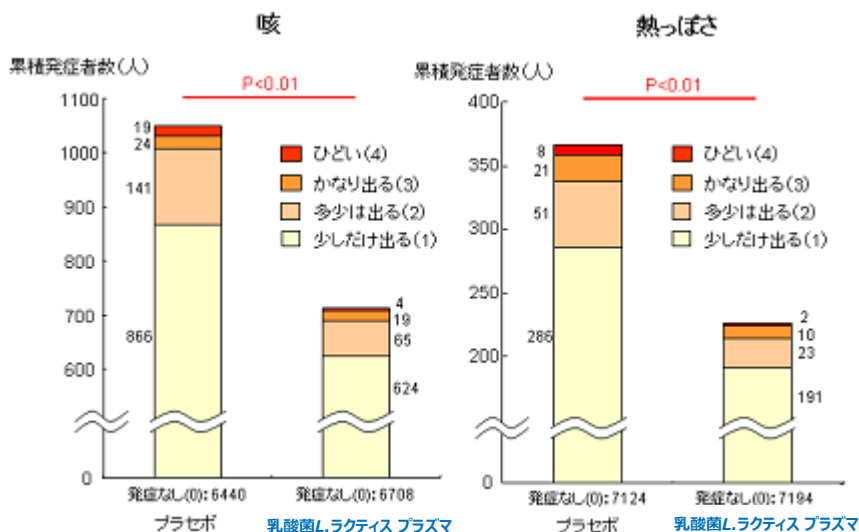
【臨床試験方法】

30歳から59歳までの健康な男女213名を2群に分け、2013年1月から3月にかけて、「乳酸菌L.ラクティス プラズマ」を含むヨーグルト飲料もしくは含まないヨーグルト飲料（プラセボ）を冬期70日間摂取していただき、風邪・インフルエンザ様症状の自覚症状を記録しました。

【臨床試験結果】

症状別の解析においては、「乳酸菌L.ラクティス プラズマ」を摂取したグループでは、「咳」と「熱っぽさ」の発症・悪化が有意に抑制されていることが明らかとなりました（図1）。

図1 風邪・インフルエンザ様症状の累積発症数



試験食摂取後の被験者より血液を採取し、不活化インフルエンザウイルスで刺激した際の免疫応答性を調べたところ、「乳酸菌L.ラクティス プラズマ」を摂取したグループでは、プラセボグループに比べて、インターフェロンα遺伝子、及びインターフェロン類によって誘導される抗ウイルス因子ISG15の発現が高くなっており、ウイルスに対する応答性が高まっていることが確認されました（図2）。

図2 インフルエンザウイルスに対する免疫応答性

